

ぱれっと

5 2013
月 No.165

「ぱれっと」にはサポセンにいろいろな人が集まり、それぞれの色（個性）が発揮され、新しい出会いや活動が生まれていく…そんな願いがこめられています。



P2 ~ P3

協働のまちづくり SENDAI ▷

「これからのまちづくり、“ひとづくり”」について

～3/29 開催サポセンサロン「3.11からの支援のかたち」発刊イベントより～

P4

TOPIC! ▷ 対話をとおして、このまちの未来を考える
せんだい市民カフェに参加してみよう！

P5

シニア横丁日記 ▷ まずは一步！動き始める勇気を持とう

P6

仙台市市民活動サポートセンターからのお知らせ



社会の課題を解決するためには、市民・企業・行政が連携して取り組む“協働”が重要です。
 仙台の市民活動における協働の事例や関連情報をお伝えします。

「これからのまちづくり、 “ひとづくり”について

～3/29 開催サポセンサロン
 「3.11からの支援のかたち」発刊イベントより～

2013年度、協働によるまちづくりをより積極的に支援していくサポセンでは、まずはその担い手づくりが重要だと考えます。

震災復興の現場でも、復旧から被災地の再生・まちづくりに移行し、関わるボランティアの数、求められ



る役割も大きく様変わりしてきました。

今回は、復興の現場でひとづくりに関わっているリーダーの方々に、復興まちづくりボランティア育成にみる、これからの人材育成のキーポイントに関するご意見を伺いました。

知る人を増やし、 『世代を越えた』活動づくり

20世紀アーカイブ仙台は、仙台の近代の歴史を写真などの映像で残す活動を行ってきました。震災後は市民が撮影した震災の写真を集め、同時にその撮影者からその時の様子の聞き取りを行っています。現在は震災時に撮影された場所を定点観測し、当時と今を比較したポスターを作成。全国で展示会を開催するなど、3.11の記録・記憶を発信しています。

震災に関するこれからの課題は、震災の記憶の風化だと考えています。風化の原因は、記録されないことと、震災を知らない次の世代に引き継がれないことだと言われています。



▲ 定点観測パネル展示



▲ 記録誌「3.11 キラクのキルク」

ボランティアによる震災の記録の継承を続けていくため、震災を経験した人が、震災を知らない人に記憶を伝え、その人が記録＝アーカイブをすることを繰り返し、語り続けていく活動を行っています。その



副理事長

▲ 佐藤正実さん

ためには、世代を超えた3.11の記録者を増やしていくことが必要になります。

20世紀アーカイブ仙台の活動は、これからボランティアを始めようとする人々にとって、『知らないことを知りたい』という気持ちと、まず『聞くこと』から始めるという取り組みのしやすさがポイントになっています。

団体紹介 NPO法人 20世紀アーカイブ仙台 理事長：坂本 英紀

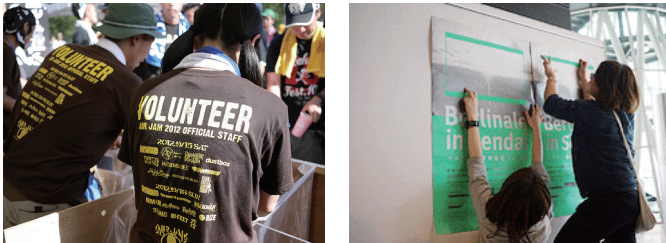
〒983-0021 仙台市宮城野区田子1-11-2
 TEL:022-387-6065 FAX:022-387-0651
 E-mail:npo@20thcas.or.jp
 HP:http://www.20thcas.or.jp/

ボランティアの『ハードルを下げる』

2011年の震災の直後から活動を始めたボランティアインフォは、ウェブによる情報発信を通じて被災地とボランティアをつなげてきました。

のべ500万人が関わったと言われているがれき撤去作業。復旧期における、短期間に多数の人員協力を要するボランティア活動は減っている一方で、特定の技能や活動への長い関わりが必要な活動は増々必要とされています。

また、震災によりボランティア活動が活発になった反面、復興が進むにつれ、復興に求められる技能や思いのハードルが徐々に高くなり、“ボランティ



▲ 音楽イベントなどでのボランティアの様子

ア=ハードルが高い”というイメージを持つ方も増えてきました。

そこでボランティアインフォでは、「AIR JAM」という復興支援を目的とした大規模音楽イベントの中で、いろいろな人が関わりやすい活動の場を、ボランティアとともに作り、新しい形のボランティアコミュニティ(集まり)を形成しようと動き始めています。



▲ 北村孝之さん

団体紹介

NPO 法人ボランティアインフォ

代表：北村 孝之

〒980-0014 仙台市青葉区本町1-12-12
GMビルディング2階 NPO法人学割NET内
E-mail:info@volunteerinfo.jp
HP:http://volunteerinfo.jp/

“とにかく行動すること” がひとづくりに

東北復興新聞の発行を通じて、被災地3県の先進事例とそのノウハウの紹介を、自治体の方や現地事業者、活動NPOや支援企業の方々へ向けて行っています。復興に関係する人々の“横”のつながりをつくる役割とともに、被災地の“いい事例”を被災地外にも広めることにより関心喚起などを目指しています。

ボランティアを広げるこれからの取り組みとして、何か活動を始め際には、個人が感じる直観を大事にすることが必要な事だと感じます。海外で旅をしながら社会貢献活動をしてきた自身の経験では、“Selfish Compassion(自分勝手な思いやり)”という言葉が、ボランティア活動を後押ししてくれました。

また、より多くの人を巻き込んだ活動を行うためには、ボランティア個人個人の創造性がキーになると思います。例えば、我々は岩手県のコミュニティ新聞を支援していますが、住民の



▲ 本間勇輝さん

皆さんは写真の撮り方やデザインなどの制作を、とても楽しそうにやっています。

団体紹介

NPO 法人 HUG

代表：本間 勇輝

〒151-0053 東京都渋谷区代々木2-10-9-8F
E-mail:info@h-u-g.jp
HP:http://h-u-g.jp/

つながる
つなげる
サポセン

▷ まちづくりに、市民活動に、関わる機会を増やすサポセンの取り組み

サポセンでは、これからボランティア活動を始めたいという方に向けて、学ぶ「いろは塾」、知り合う「サポセンサロン」、そして、仙台市内外で行われる様々な市民活動に参加する機会を提供し、まちづくりに関わる「ひとづくり」を行っていきます。(藤原航)



= 対話をとおして、このまちの未来を考える =

せんだい市民カフェに参加してみよう！

これからの仙台のまちづくりについて考える「せんだい市民カフェ」が5月28日に開催されます(主催：仙台市)。今回のテーマは『「市民と行政と一緒に課題解決！」...ってどういうこと?』。平成24年度の「市民協働事業提案制度」のパイロットプロジェクトで、採択された事業「仙台版体験型そなえゲーム※」に実際に参加された方々の声を聞きながら、市民と行政による課題解決について考えます。「市民協働って?」と素朴な疑問をお持ちの方から、「市民協働事業提案制度」への応募を考えている方まで、関心のある皆さんはぜひご参加ください。

せんだい市民カフェとは?

これからのまちづくりについて市民の皆さんがカフェのようにリラックスした雰囲気の中で、自由に語り合い、それぞれ「何ができるか」を一緒に考える場です。ワークショップ、パネルディスカッションなど、さまざまな手法を用いながら、2011年7月からこれまで、多様なテーマで参加者の皆さんと、まちづくりを考えてきました。

市民協働事業提案制度とは?

地域の身近な課題について、市民の皆さんによる提案をもとに、仙台市と一緒に解決していく制度です。市民の専門性やネットワークを生かし、仙台市とともに取り組むことで、地域のニーズに応えることが見込める事業提案を、平成24年度より募集しています。現在、平成26年度市民協働事業提案の募集について準備中です。

2013

せんだい市民カフェ



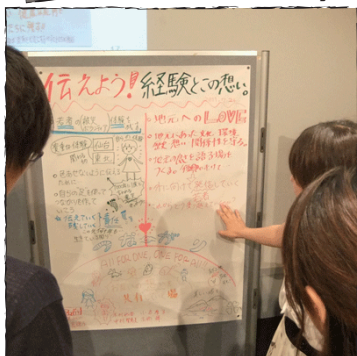
日時：2013年5月28日(火)午後6時～午後8時
場所：せんだいメディアテーク 1F オープンスクエア
参加費：無料 申込不要

※「仙台版体験型そなえゲーム」体験会実施！

当日午後3時半から同会場にて実施いたします。事前にお申込みが必要です。5月27日までに下記お問い合わせ先までお電話にて、お申込みください。

「仙台体験型そなえゲーム」とは、「災害に備えるために、自分や地域に何が必要か」について学べる参加型ボードゲームです。

主催：仙台市 / お問い合わせ：仙台市市民局 市民協働推進課
仙台市青葉区二日町1-23 アーバンネット勾当台ビル2階
TEL:022-214-8002 FAX:022-211-5986 MAIL:sim004100@city.sendai.jp



まだ・これ

シニア 横丁日記

「シニア横丁」は、まだまだ、これから！50歳後半からのセカンドライフに意欲を燃やす人や情報が集まる場所。これから新しい一步を踏み出そうとしている方は、ちょっと寄っていきませんか。

まずは一步！動き始める勇気を持つ

NPO法人生活習慣改善センター 理事長 富澤 伊勢雄 さん(69歳)

富澤さんは、NPO法人生活習慣改善センターの理事長として、「人と地域を元気に！」をスローガンに、生活習慣病の予防と早期治療のための取り組みを行ってきました。東日本大震災以降は、大震災NPO連携ネットワーク会議に参加、マザーテレサ修道院のシスターとも連携して、宮城県亘理町などの被災地の支援活動を精力的に行っています。そのバイタリティあふれる活動の源をお聴きました。



“魚屋”一筋の商売人

大学を卒業後、東京で自由に暮らしていた富澤さんが、父親の願いに従い仙台に戻ってきたのは28歳の時。それから25年、父や兄弟と共に実家の魚屋を切り盛りしてきました。

その後独立し、従来の魚屋の枠にはまらない柔軟な発想で商いを展開してきました。また仕事以外でも、友人や先輩たちとの交流を積極的に広げていた富澤さん。「毎日会社の事務所に寝泊まりし、昼夜関係なく働いた」と、当時を振り返ります。

ある時、家族も顧みず働いていた富澤さんに、ひとりの先輩が苦言を呈しました。「君は、何のために働いているんだ？」それは、生き方の原点を問うものでした。「この生活を変えなくてはいけない」そう感じた富澤さんは61歳で仕事を辞めました。その時、体はすでに糖尿病が悪化し杖をつかなくては歩けないほどの状態だったといいます。

NPOとの出会いが転機

自分と同じように糖尿病を患っている人の役に立ちたいと、シニア活動支援センターに相談にやってきましたのは、2009年のこと。その時対応したスタッフのアドバイスは「まずは想いを共有できる、仲間

や協力者を探すことから始めましょう！」でした。

さっそく、勉強会を企画。新聞で告知すると、当事者、その家族、大学の教授、医師や栄養士など同じ問題意識を持っている人々が集ってきました。並行して、食事療法を実践するための料理教室も開催。このように活動に賛同してくれる人が増え、少しずつ活動が軌道に乗っていったのでした。

東日本大震災で教えられたこと

2011年に発災した大震災。従来の活動に加えて行う支援活動は手さぐり状態、とにかく被災地に向いて被災者の要望を聞くことから始めました。行った支援活動の中で印象に残っていることは「亘理町の仮設住宅の集会所で七夕飾りづくりをしたとき、みんなの目が輝いたんだよ。手仕事は、日常を忘れて集中できるんだなあと思ったね」。常に被災者側に寄り添った活動を行う中で、行く先々で新しい人との出会いがあり、人と人がつながり、なにより富澤さん自身が元気をもらったといいます。

何か始めたいというシニア世代に向けてメッセージを伺うと、「活動を始めるのに、何も思いわずらうことはない。まずは動くことですよ」と、その答えは明快でした。
(葛西淳子)

仙台市市民活動サポートセンターからのお知らせ

NPOいろは塾

90分でNPOのいろはを学ぼう!

さあ、はじめよう!



日時：2013年5月23日(木)午後7時～午後8時半
 会場：仙台市市民活動サポートセンター4階 研修室5
 参加費：無料
 定員：15名(先着順)
 内容：NPOってどんな組織なの？ NPOのしくみや参加方法を知りたい。そんな方におススメです。サポセンガイドツアーもお楽しみに。
 受付：チラシ裏面の申込書にご記入の上、サポートセンター窓口または、FAXにてお申し込みください。お電話でも受け付けています。

つながる つなげる サポセン

▶仙台市市民活動サポートセンターとは

さまざまな分野の市民活動団体や NPO、ボランティアなど、非営利で公益的な活動をしている人たちが、これから活動しようと考えている人たちのための拠点施設です。

▷仙台市シニア活動支援センターとは

シニア世代の地域・社会参加活動を応援していますので、お気軽にお問い合わせください。

▶相談・つながるサロンとは

市民活動サポートセンターとシニア活動支援センターの相談窓口を3階に集約し、じっくりご相談いただける環境を整えました。

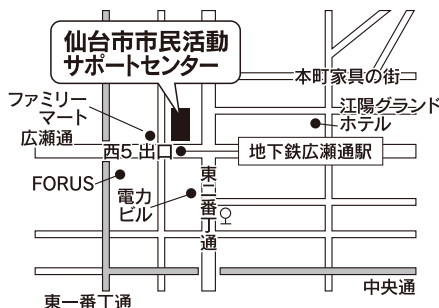
このようなご相談おまかせください

- ・市民活動の立ち上げ、法人格の取得
- ・団体運営、組織運営
- ・復興支援活動
- ・シニア活動、セカンドライフ相談など

相談時間

- ・平日：午前10時～午後8時
- ・日祝：午前10時～午後5時

▷ご案内図



○ 来館の際は、公共交通機関をご利用ください。

- [最寄りのバス停] 電力ビル前、商工会議所前
- [地下鉄] 広瀬通駅下車、西5番出口すぐ

○ 当施設に駐車場・駐輪場はございません。お車や自転車でご来館される方は、周辺有料駐車場・駐輪場をご利用ください。

注) 路上駐車・駐輪は周辺の迷惑となりますのでおやめください。

シニア活動支援センター 専門相談

子どもの学びをサポートしてみませんか？学習支援の活動に関心がある方への個別相談会です。

専門相談員 **NPO 法人 アスイク**
 代表理事 **大橋 雄介 さん**

日時：2013年5月18日(土)
 午前10時～午後4時の間で、
 1名あたり50分程度

会場：仙台市市民活動サポートセンター3階
 参加費：無料

定員：5名(個別相談、グループも可/先着順)
 対象：おおむね55歳以上の方で...

- ・これまで培ってきたスキルを生かしたいと考えている方
- ・子どもたちの学習支援活動の内容を知りたい方
- ・シニア世代が参加している活動の事例を知りたい方など

申込：TEL 022-217-3983 FAX 022-217-3984

▷「ぱれっと」読者アンケート にご協力をお願いします!

サポセンホームページからアクセスいただくか、携帯電話等で右記の2次元バーコードを読み取ってご利用ください。



編集後記：

5月になり、木々の若葉が芽吹いて「杜の都仙台」は本当に美しい季節を迎えました。このたびサポセンでは、新しいスタッフを2名迎えました。若葉マークの彼らは現在研修中。利用者の皆さまから学ばせていただくことがたくさんあります。新人ともども、改めてよろしくお祈いします。

発行：仙台市市民活動サポートセンター
 仙台市シニア活動支援センター
 〒980-0811 仙台市青葉区一番町四丁目1-3
 TEL 022-212-3010 FAX 022-268-4042
 HP <http://www.sapo-sen.jp>
 Blog <http://blog.canpan.info/fukkou/>

発行日：2013年5月11日

編集：特定非営利活動法人 せんだい・みやぎ NPOセンター

編集人：菊地竜生 菅野祥子 太田貴 葛西淳子 松村翔子

▽開館時間

平日：午前9時～午後10時 / 日祝：午前9時～午後6時

▼休館日

毎月第2・第4水曜日(祝日の場合は翌日木曜日)及び、年末年始(12/29～1/3)